



2019年4月に向けて

記

前回はリヒャルト・シュトラウスの薔薇の騎士を、一幕、三幕はカラヤン版、そして若い騎士が銀の薔薇を令嬢に届けに行く二幕は、クライバー版という KLA ならではの、ありえない離れ業を致しました。あのフォン・オッター演じる二幕は、池田理代子さんが、ウイーンで見た時、一目ぼれして、ヴェルサイユのぼらを描く出会いとなったそうですから、あれでよかったですね。

さて、今回はドニゼッティ (1797-1848) 作曲の“愛の妙薬”に致しましょう。ちょっと頭の弱い、優しい青年役はパヴァロッティの当たり役でしたが、今回はメトロポリタン劇場の新しい演出家バートレット・シャーで、現代最高の歌手の一人ネトレプコと、今人気のテナーマシュー・ポレンザーニが歌います。地主の娘で美しく、賢いアディーナは、村の娘たちに、「トリスタンとイゾルデ」の物語を読んで聞かせます。アディーナを好きなネモリーノは、そんなに効く薬があればいいなあと思っている時、いかさま薬売りが村の広場に現れて、イゾルデの媚薬は無いかと聞くネモリーノに安葡萄酒を愛の妙薬だと売りつけます。劇中で歌われる「人知れぬ涙」はきっと、お聞きになったことがある名曲です。楽しい喜歌劇ですからお楽しみください

以上

青戸